

## 第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画（案）に関する意見募集結果について

### 1 実施状況

- (1) 募集期間：令和8年3月25日（水）～令和8年4月15日（水）まで
- (2) 募集場所：滝川市役所1階 お知らせコーナー（らせん階段下スペース）  
滝川市役所2階 図書館入口付近  
滝川市役所7階 新しい学校づくり推進課カウンター  
江部乙支所（農村環境改善センター）  
東滝川地区転作研修センター  
滝川市公式ホームページ
- (3) 募集周知：令和8年3月25日（水） 広報メモ送付  
市公式ホームページ掲載  
令和8年3月26日（木） 広報たきかわ4月号お知らせ「募集欄」に掲載

### 2 実施結果

- (1) 意見提出者数：26名

#### 【内訳】

##### <居住地別件数>

市内在住者・・・・・・・・23名  
市外在住者・・・・・・・・3名

##### <提出場所別件数>

滝川市役所1階 お知らせコーナー・・・・・・・・1件  
滝川市役所2階 図書館入口付近・・・・・・・・0件  
滝川市役所7階 新しい学校づくり推進課カウンター・・・・0件  
江部乙支所（農村環境改善センター）・・・・1件  
東滝川地区転作研修センター・・・・・・・・0件  
滝川市公式ホームページ・・・・・・・・24件

- (2) 意見及び回答

別紙のとおり

第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画(案)に係る意見募集結果について（令和8年3月25日から4月15日まで）

【小規模特認校・計画案に対する意見】 8件

No.	学校区 (住所)	ご意見の内容	回答
1	江部乙小学校	<p>江部乙小学校の統廃合についての意見です。</p> <p>まず、現状のままの江部乙地域の公立学校の存続は確かに難しいと理解しております。</p> <p>そこで、地域からの要望として、小規模特認校への転換として存続の声が上がっていることはご存知のことでしょう。</p> <p>ただし、前回の江部乙改善センターでの説明会で市側から示唆された通り、ただ特認校と名打っただけでは児童は集まらず、経営が成り立たないことは目に見えております。大事な親を惹きつける教育の中身と、地域や市の熱量だと思っております。</p> <p>そこで、児童を集めるための、また、クオリティの高い教育のためのアイデア、素案をここに並べます。一市民の考えではございますが、民生委員児童委員の経験や、長年の食育に携わった者として、多少なりともお役に立てればと思っております。ご参考に、そして真剣にご査収くださいませ。</p> <p>滝川市江部乙小規模特認校(仮称)の特別教育</p> <p>①少人数制 現場教員の経験や研究資料に基づいた、取りこぼしのない最適な人数での学習</p> <p>②質の良い教員の募集 自然豊かな環境を学習に存分に活かすアイデアとやる気を持った教員の募集</p> <p>③自然体験学習のカリキュラム化。 学習指導要領にはない、地域環境にある素材を生かした体験学習等々を担任任せにすることなく年次体系化する</p> <p>④ 学習の基礎の徹底と宿題の廃止 人生に必要不可欠であり、進学後の礎になる基礎学力をしっかりと身につけさせるために、宿題の廃止、および、個人差に対応した復習の時間の確保とその人員の確保</p> <p>⑤市内外で現在の教育に適応できない子供たちの受け入れや、お試し入学の実施</p> <p>⑥子供のやる気を引き出すことにより、教育レベルを上げる 英語慣れ、コミュニケーション教育、情報教育、ボランティア教育など、現代を生きる上で必要な度量を6年間を通して、楽しみながら身につける 場合によっては、私立中学受験などの進学相談も受けられるとなお良いと思っております。</p> <p>⑦学校施設について、環境整備、施設保持のための人手や、郊外学習における安全確保のための補充人員を地域住民にお手伝い、動いてもらう協力体制</p> <p>⑧放課後学童保育の隣接(共稼ぎ世帯への対応)</p> <p>⑨教育内容に関わる教材、人員への予算の確保 (ボランティアに対してはガソリン代等の費用弁償は必須と考えます) これだけで足りる物ではありませんし、何より、地域住民のやる気がネックとなります。 市政の大変な中でのお仕事とは存じますが滝川市が国際都市として恥じない教育を目指すためと考えました。 どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>①小規模校の良さを生かしつつ、協働的な学びを実現するには1クラス15名程度が望ましいと考えておりますが、特認校制度を導入しても過小規模(複式学級の常態化)を解消する見込みがなく、小規模の利点を十分に発揮することが難しいと判断しております。</p> <p>②教職員の採用・配置については特認校制度を導入した場合においても北海道教育委員会が行うものであり、市が独自にご提案のあった人材を確保することは難しい状況です。</p> <p>③ご提案の趣旨は理解しますが、教育課程は学習指導要領に基づいて編成する必要があり、これに基づかない独自の教育課程を編成することはできません。一方で、地域資源を生かした学習や自然体験活動については、現行の教育課程の中でも十分に位置付けが可能であり、本市としても充実を図っていきたく考えています。これらは小規模特認校制度とは別に検討すべきものと認識しています。</p> <p>④個に応じた学習の充実は重要と認識しています。現在も教職員をサポートする人員を配置し、個別支援や補充的な学習の充実に努めているところです。一方で、宿題の在り方については各学校の教育課程の中で適切に判断されるべきものであり、一律の廃止は想定していません。引き続き、既存の体制を活かしながら指導方法の工夫を図っていきます。</p> <p>⑤本市においては既に教育支援センターを設置し、協定に基づき一部市外の児童生徒の受入れを行っているところです。このように、適応が難しい児童生徒への支援については、既存の制度の中で対応を進めています。</p> <p>⑥ご提案の内容は、小規模特認校制度の導入に限らず教育内容の充実に資するものと考えています。意欲を引き出す指導や英語・情報・コミュニケーション等の資質能力の育成は重要であり、各学校において学習指導要領に基づき教育活動全体を通じて取り組んでまいります。</p> <p>⑦地域の協力による学校運営の支援は大変ありがたいことです。本市においても、学校運営協議会や学校支援地域本部事業を通じて、既に全ての学校で取組を進めているところです。今後こうした体制を活用し、地域と連携した教育活動の充実を図っていきます。</p> <p>⑧共働き世帯への対応を含め、子育て環境の充実という観点からも放課後児童クラブの利便性向上は重要であると認識しています。関係部局と連携を図り、配置や運営の在り方について検討を進め、設置場所についても利用児童数や施設条件、人員配置などを踏まえ総合的に判断してまいります。</p> <p>⑨財源には制約がありますが、小規模特認校制度の導入に限らず教材や人員に係る予算の確保、ボランティアへの費用弁償は重要であり、本市としても可能な範囲で対応を検討してまいります。</p>
2	江部乙小学校	<p>江部乙地域の住民として、江部乙小学校についてのみ意見を申し上げます。</p> <p>前提として小・中学校の統廃合全体については、少子化、人口減、予算面から教育環境の整備として取り組むべき課題であることは承知しています。またこの適正配置計画(案)は、子供たちの教育環境を整えるべく、前例や法令に即したものであることも承知しています。</p> <p>しかし我々江部乙地域の住民にとっては、教育の問題である以上に、地域問題、生活環境維持の問題であるとの認識をしています。農村部の過疎化の抑止として、これまで官民一体でさまざまな取り組み</p>	<p>1. 本市が検討しているのは、児童数の減少により、令和2年から複式学級の規模になり、既に教育環境上の課題が現れている過小規模の解消、すなわち、教育課程を安定的に実施できる「学校規模」を確保することです。</p> <p>小規模特認校制度については、制度の有効性そのものを否定するものではありませんが、本市のおかれた諸条件に照らせば、小規模特認校制度による対応だけでは過小規模の解消に繋がる大幅な児童数の増加は見込みにくいと判断いたしました。</p>

		<p>を行ってきましたが、人口減の歯止めはかかっていない状況であります。その中で、江部乙においては小学校を子供と地域の交流拠点の一つとして位置づけ、より多様な学びの場として機能させられないか、という願いが以前からありました。それを考えるとこの計画に従い、江部乙小学校が令和31年に廃校になってしまった場合、地域の願いの一つが潰えてしまうこととなります。それはさらなる江部乙地域衰退を招くことは想像に難くありません。</p> <p>また時代変化のスピードが従来より早まり、社会構造が流動化する中、今後の社会における教育の在り方の方針が定まっているとは言えない現状で、立案される計画が5年後以降の社会における教育の場として「適正」であるかどうかの判断は誰にとっても難しいものであらうと思えます。</p> <p>滝川市における江部乙地域、という特性を踏まえ本計画案から江部乙小学校の統廃合に関しては、何らかの形によって存続という道を願っています。地域住民もその方向での協力は惜しまないはずですが、</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他の住民から既出の「特認小学校」としての存続</li> <li>2. 令和31年までを実験期間として江部乙小学校で「多様な取り組み」を行う。</li> <li>3. 改善センターに小学校機能を移して存続。</li> <li>4. 第二小学校と同じく令和36年まで計画延期。</li> </ol> <p>ぜひ、再考をいただきたいと願っています。</p> <p>※意見中の「令和31年」、「令和36年」については、「2031年」、「2036年」の誤りだと思われませんが、原文のまま掲載します。</p>	<p>2. 試行期間の導入については、仮に過小規模の解消に繋がる十分な児童数の増加が得られなければ、方針決定が先送りとなり、保護者や児童に統合へ向けた十分な準備期間が確保できず、早期の環境改善が困難になることが懸念されます。</p> <p>また、仮に一時的な転入があったとしても、滝川市全体の将来の児童数の減少傾向を踏まえると、その効果も数年で収束する可能性が高いと考えており、過小規模の解消という課題はさらに深刻化してしまうと見込んでいます。</p> <p>統合時期を「令和13年度」としたのは、将来の児童推計において、江部乙小学校は令和13年度以降、全学年で複式学級が常態化する可能性が高いためです。今以上に教育活動の制約が強まる前に、子どもたちの教育環境の改善を図りたいと考えています。</p> <p>なお、新校舎の供用開始を予定している滝川第一小学校に統合時期を合わせることで、江部乙小学校の児童や保護者、地域の皆様のご意見等を校舎設計に反映することも可能と考えております。</p> <p>統合までの期間を十分に確保し、児童や保護者の負担を軽減するための様々な取り組みを進めてまいります。</p> <p>3. 現在、江部乙小学校が過小規模となっている主な要因は、江部乙地域の人口および児童数の減少であると考えており、学校の立地による影響ではないと認識しています。そのため、小学校の機能を農村環境改善センターに移しても、過小規模の解消に繋がる抜本的な児童数の増加は見込めないと考えております。</p> <p>なお、同センターへの移転については、学校設置基準等に基づき学校としての要件を満たす必要があるため、職員室や特別教室、給食受入スペース等、学校運営に不可欠な諸室および屋外運動場（グラウンド）の確保が困難です。</p> <p>これらを整備するにあたっては敷地的な制約に加え、多額の費用を要することから、実現は極めて困難であると考えています。</p> <p>4. 仮に計画を令和18年（2036年）まで延長した場合、江部乙小学校の児童数は更に減少し、全校で22名となる見込みです。既に複式学級が常態化している状況において、更に10年間、この状態を維持することは、子どもたちの教育環境において様々な課題を顕在化させることとなります。</p> <p>以上のことから、結論を先送りすることなく、適正な時期に子どもたちの教育環境を整えていくことが本市の責務であると考えております。</p>
3	江部乙小学校	<p>本計画案に対し以下の6点を強く要求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和8年文科省報告を踏まえた計画の根本的再検討 令和8年文科省報告が示す「結論ありきの回避」の原則に従い、本計画案を根本的に見直すこと。統合案と存続案（小規模特認校制度を含む）の利点・課題を客観的に比較する計画に修正すること。</li> <li>2. 市独自「90人基準」の根拠再検証と公開 令和8年文科省報告が求める「弾力的運用」の観点から、文科省指針にない市独自の「全校児童90人」基準の根拠と妥当性を再検証し、その結果を市民に対して公開の場で説明すること。</li> <li>3. 小規模特認校制度の実現可能性調査の実施 令和8年文科省が報告が「有効」と認める区域外就学（小規模特認校制度）について、江部乙地区の地域資源を活用した具体的な実現可能性調査を実施すること。また、岩見沢市立メープル小学校をはじめとする道内成功事例の調査結果を公表すること。</li> <li>4. こども基本法に基づく児童の意見聴取 こども基本法（令和5年施行）が地方公共団体に義務付ける「子どもの意見反映」として、当事者である江部乙小学校の児童及び統合対象校の児童に対する意見聴取を実施し、その結果を計画に反映すること。</li> <li>5. 学校閉鎖が地域に与える影響の具体的調査 令和8年文科省報告が求める「丁寧な検討」として、江部乙小学校の閉校が地域の防災機能・地価・人口動態・地域コミュニティに与える具体的な影響調査を実施すること。</li> <li>6. 外部有識者を含む第三者委員会の設置 教育学・統計学・地域経済学の専門家を含む第三者委員会を設置し、統合案・特認校案・その他の代</li> </ol>	<p>1. ご指摘の文部科学省の記載については、本市としても十分認識しています。</p> <p>まず、同資料においては、学校の適正規模・適正配置の検討に当たっては、多角的な観点からの検討が必要とされています。一方で、その議論の中心は「児童生徒の学びの環境の改善」であることが明確に示されています。本市においても、検討の中心を「子どもたちの学習環境の改善」に置くとともに、「保護者の意向を優先」したいとの考えに基づき、アンケートや保護者懇談、地域説明会等を通じて実態把握を行い、教育環境、通学条件、地域の状況など複数の観点から検討を進めてきたところです。</p> <p>また、同資料では、学校を統合する場合と小規模校として存続させる場合のいずれかを、あらかじめ結論ありきで評価することを避けるべきとされていますが、これは特定の方向を前提として議論を進めないことを求めるものであり、検討の結果として一定の結論に至ることまで否定するものではないと認識しています。</p> <p>本市としては、小規模校の良さについても認識した上で、過小規模の状態における教育環境上の課題や、適正規模を下回る場合の対応の目安については、これまで策定した適正配置計画において示しており、各選択肢の利点と課題を整理した上で検討を行ってきました。</p> <p>その結果として、児童数の将来推計等を踏まえると、過小規模の解消が困難な状況にあると判断し、その解消に向けた案をお示ししているものであり、結論ありきで検討を行ってきたものではありません。</p> <p>なお、文部科学省の資料においても、地域の実態を踏まえた主体的な判断が求められているところであり、本市としては、これまでの検討経過と地域の状況を踏まえ、責任をもって判断していく必要があると考えています。</p>

	<p>替案について客観的かつ公正な審議を行うこと。</p> <p>○結び</p> <p>令和8年3月26日に公表された文部科学省の最新報告は、まさに本計画案の意見募集期間中に示された国の方向性であり、本市がこれを無視して計画を決定することは、国の方針に背く行為となりかねません。</p> <p>江部乙小学校は単なる教育施設ではありません、地域の防災拠点であり、コミュニティの核であり、70年以上にわたって地域を支えてきた子どもたちの居場所です。「統合か、存続か」ではなく、「どうすれば子どもたちにとって最善の教育環境を実現できるか」という本質的な問いに立ち返った議論を強く求めます。</p> <p>地域では住民グループ「わたげの会」・有志団体「まある」が既に具体的な活動を開始しており、また、「江部乙小学校を小規模特認校として存続させる会」が存続を求める署名活動も拡大しています。行政が「困難」と断じた支援体制は、住民の熱意によって現実のものとなりつつあります。この事実を正面から向き合い、誠実かつ開かれた議論の継続を求めます。</p>	<p>2. 文部科学省の資料においては、学校規模について弾力的な運用が可能である旨が示されておりますが、これは各地域の実情に応じて主体的に判断することを前提としたものであり、具体的な規模の設定については各自治体に委ねられております。</p> <p>本市において設定している「90人規模」という基準も、小規模特認校の成立条件を機械的に判断するためのものではなく、小規模校として教育活動を安定的に成立させるための目安として整理したものです。具体的には、学習指導要領で求められる教育課程を適切に実施するためには、一定程度の集団規模が必要であり、教育指導、学校運営、人間関係の観点を踏まえると、各学年におおむね15人程度の児童が在籍する規模が一つの現実的な水準と考えています。</p> <p>一方で、この基準はあくまで目安であり、90人を下回った場合に直ちに不成立との判断を行うものではありませんが、今後見込まれる児童数の減少を踏まえると過小規模を改善できるような効果は見込めないと判断したものです。</p> <p>また、実際に江部乙小学校においては、平成29年以降90人を下回る状況が継続している中でも、地域の実情を踏まえながら学校運営を継続してきた経過があります。令和2年からは複式学級を回避するため、市費による教員配置を行ってきましたが、児童数の減少が進む中で、複式学級の常態化など過小規模の状態にあります。今後、教育環境上の課題がさらに顕在化することが懸念されます。こうした状況を踏まえると、過小規模の解消という観点からは、小規模特認校制度のみで対応することは十分とは言えず、慎重な判断が必要であると考えています。</p> <p>したがって、本市の90人基準は、弾力的運用の考え方と矛盾するものではなく、地域の実情と教育条件の確保を両立させるための運用上の指標として設定したものです。また、文部科学省の資料においても各自治体が学校規模の標準を設定することや主体的に判断することが重要である旨、言及されているところです。</p> <p>3. 区域外就学とは、他の自治体の学校へ通うことを認める制度であり、学校選択制の一つである特認校制度とは異なるものであるため、特認校制度についてのご意見としてご回答します。</p> <p>学校選択制（特認校制）の活用が、児童生徒の学びの充実という観点から有効な工夫の一つであることについては認識しています。</p> <p>一方で、小規模校における学びの質の維持・向上を図るための方策としては有効かもしれませんが、学校規模そのものを改善・維持する手段としての有効性については限定的であると理解しています。</p> <p>本市が検討しているのは、過小規模の解消、すなわち、教育課程を安定的に実施できる「学校規模」の確保であり、検討の前提となる目的が異なっていると思います。</p> <p>そのため、小規模特認校制度については、制度の有効性そのものを否定するものではなく、本市のおかれた条件のもと、過小規模の解消に至るだけの児童数の確保が可能かどうか、という観点から検討した結果、大幅な児童数の増加は見込みにくいと判断したものです。</p> <p>なお、流入する児童数が10名程度とした見込みについては、他自治体の事例や本市の地理的条件、児童数の動向等を踏まえ、複数の観点から検討したものであり、恣意的に設定したものではありません。</p> <p>仮に制度導入で一時的な転入があったとしても、安定した学級編制や教育活動の構造的な課題の解消には至らず、また滝川市全体の児童数の減少傾向を踏まえると、その効果も数年で収束する可能性が高いと考えており、過小規模の解消という課題はさらに深刻化してしまうと見込んでいます。一時的に人数が増えることと、教育環境が安定的に成立することは別であると考えています。</p> <p>岩見沢市立メープル小学校をはじめとする道内の特認校制度導入事例の調査結果については、調査により得た内容に、各自治体独自の課題や未公表の行政情報が含まれており、これらは本市の計画策定の参考とするため、相手方自治体より「非公表」を前提に特別に提供を受けた情報であるため、信義則の観点から詳細の開示は差し控させていただきます。</p> <p>4. ご指摘のこども基本法の趣旨については、本市としても、こどもや若者の意見を適切に施策へ反映していくことが重要であると認識しています。</p> <p>その上で、学校の統合のように、将来の教育環境、通学条件、学校規模などを総合的に判断する</p>
--	--	---

			<p>必要がある政策については、発達段階による理解の差、判断に伴う心理的負担、結果責任との関係を踏まえると、児童本人に直接、賛否の判断を求める形での意見聴取は、適切ではないと考えています。</p> <p>ただし、こどもの意見を全く考慮しないということではなく、日常の学校生活の様子や教育環境に関する感じ方などについては、保護者を通じて間接的に把握しているほか、保護者から寄せられる意見の中にも、こどもの実情や考えに関する内容が含まれているものと認識しています。</p> <p>そのため、政策判断に直結する意思形成については、子どもの教育に責任を有する保護者の意向を中心に把握することが適切であると整理しています。</p> <p>一方で、子どもの意見を反映する場面については、政策の性質に応じて適切に設定することが重要であるとと考えています。</p> <p>そのため、滝川第一小学校の建て替えにあたっては、児童を対象としたワークショップ等を通じて、「どのような学校で学びたいか」「どのような環境が望ましいか」といった観点で、児童の意見を直接的に反映していく取組を行う予定としています。</p> <p>5. 学校閉鎖が地域に与える影響については、江部乙商工会との懇談において、仮に江部乙小学校が閉校になった場合においても、地域経済に与える影響は極めて限定的であることを確認しており、江部乙商工会としては、地域から小学校がなくなることは残念であるがより良い教育環境の改善のため、統合はやむをえないとの意見でありました。</p> <p>また、令和2年度に農村環境改善センターを江部乙地区の拠点として整備しており、児童館・学童機能の他、地域の皆様が集える場をとして『つどいの広場』を整備し、江部乙地区のコミュニティーの拠点として、現在も年代を問わず、多くの方々に利用されています。併せて、農村環境改善センターが江部乙地区の基幹避難所に指定されていることから、地域防災の拠点として防災機能の強化を図るための整備を実施しております。</p> <p>江部乙小学校統合後も農村環境改善センターはこれまで通り江部乙地区のコミュニティー拠点、地域防災の拠点として、維持・継続する考えであります。</p> <p>6. 本計画の見直しにあたり、アンケートの実施・保護者懇談・地域説明会・学校運営協議会等との意見交換の場を通じて、それぞれの立場の方々からの意見把握に努めてきたところです。</p> <p>江部乙地区の代表が行った署名活動や地域住民の活動実績については、地域の学校に対する思いや関心の高さを示す重要な意見として認識しており、判断材料の一つとして受け止めているところです。ただ、署名や特定の活動は、一定の意思を示すものである一方で、対象範囲や署名者の属性に偏りが生じ得ることから、全体の意向を把握する手法とは性格が異なるものと整理しています。</p> <p>学校の適正規模、適正配置の議論に当たっては、議論の中心が「子どもたちの学習環境の改善」であり、現状の過小規模校での環境改善を強く望んでいる方の多くは、現在、普段の学習環境や友人との関係を誰よりも把握する江部乙小学校に子どもを通わせる保護者の皆様です。</p> <p>このことから今回の適正配置計画の改訂においては、外部有識者を含む第三者委員会は設置しませんが、子どもたちの学習環境の改善に向け、これまでの検討結果と地域の状況を踏まえ、責任を持って計画を策定します。</p>
4	江部乙小学校	<p>江部乙小学校の存続と特認校の導入を求める立場から、意見を申し上げます。</p> <p>①先日存続のお願いで市役所を訪問した折のことは、道新やプレスの報道を通して道や市町村の教育関係者が見ていると思います。その席で市長は保護者が統合を認めているとし、「子どもに責任を持つ保護者の考えを大切にしたい」と述べました。市民説明会配布資料によれば未就学児の保護者を含めた対象58名のうち、統合を認めているのは18名（賛成7名、やむを得ない11名）、保護者の3割程度にしかありません。また多数の未回答もあり、会場で市民側からこの数字で統合を認めていると断定するには重大な疑義があると指摘されてきたことです。市長はこの経過を知らないのか、何を根拠に言っているのか理解ができません。また統廃合を決めるのは保護者意見を重視するといいます。これも50年も前から文部省の事務次官通達に地域との合意を得るよう強調されてきたことで、市長は合意を得る努力を放棄することを宣言したようなもので大問題と言わなければなりません。さらに廃校後のまちづくりを改めて相談する機会を設けたいといいました。これはとんでもない発言です。教育は次代を担</p>	<p>①令和7年10月に行った統合対象校の保護者および未就学児の保護者を対象に実施したアンケートにおいて、江部乙地区は43人が対象で、回答のあった21人（約49%）のうち、18人が「統合に賛成」または「やむを得ない」との意向を示されました。また、保護者の意向を確認する上での補完的な取り組みとして、PTA役員や保護者との懇談会などを通じ、意見の把握に努めてきました。</p> <p>その後、小規模特認校に関する説明会の意見や、小規模特認校による存続を望む方々からの要望をいただいたことを踏まえ、本年4月13日に改めて江部乙小学校在校生全25世帯へ意向確認を行いました。</p> <p>その結果、回答のあった20世帯のうち「存続」を希望されたのは1世帯に留まりました。</p> <p>また、3月25日から4月15日まで実施した計画案への意見募集においても、過小規模校の環境改善に向けた統合賛成の意見が多数寄せられています。</p> <p>これらの結果から、子育て世帯の多くが、現在の過小規模による教育環境の改善のために統合を</p>

	<p>う人材を育てるためにこそあり、学校がなくなれば町も続かなくなるわけで、地元愛に溢れた子どもらを育てる場がなくて、将来誰がまちづくりをするのでしょうか？いまやどの町も、たとえ小規模となっても学校の存続維持に全力を注いでいるわけです。江部乙に小学校がなくなれば地域を守る人材の育成がかなわず、消滅に向かうのは必定です。今日文部科学省や北海道教育委員会は、さらなる少子化時代を見据え、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携して行う地域学校協働活動を強く推進しています。滝川市長の発言に疑問を抱く人がたくさんいるのではないかと心配です。</p> <p>◎提案（お願い）です。市教委の皆さんから市長の認識を改めるよう言ってください。</p> <p>②私は、必要な統廃合は早く進めるべきだと思っている一人です。市内の小学校の統廃合は、長らく距離の離れた江部乙小を除き隣接の4校を対象に検討されてきた経緯があると理解しております。少子化がさらにスピードを加えている今日、道内では6割以上の小学校ですでに少子化対応が一定程度終わってきていますが、滝川市も5年後といわずできるところから始めるべきではありませんか。</p> <p>◎提案です。乱暴な意見かもしれませんが、例えば地元合意の得られそうな、第一小の校舎を一年でも早く解体し、児童はしばらく西小へ統合しておき、完成後に第二小も統合を進める。安全面や経費の面からも、初年度に解体作業を行い、現状のグラウンドや駐車場などは改変せずに使う、如何でしょう？</p> <p>③江部乙小学校は原案を撤回し存続することを求めます。これまで統廃合に慎重だった市教委の皆さんが急に変わるようになったのは、国がスクールバスによる通学1時間程度を容認するようになったからではありませんか？しかし、通学の上の課題も残るが、学校がなくなれば地域がさらに衰退するに違いなく、強い危機感があるのです。市民説明会や署名活動の様子からもお分かりのことと思います。到底合意できる話ではありません。かつて江部乙は屯田入植者の子弟が名産リンゴを守ってきたし、今も全道に水稲の種籾を供給する大切な基地の一つとして貢献をしています。北辰や乙っ子の名を誇りに育った人々が地元の経済もまちづくりも支えてきたし、また著名な芸術家、ジャーナリストも多数輩出した伝統校です。ところで江部乙が急に衰退し始めたのは合併後の昭和50年代の中ごろからで、このことを心配した文化勲章の岩橋英遠は、滝川市へ多額の私財と多数の作品を寄贈し、桜事業や開館40周年の美術自然史館を支えてきました。また友人らから母校に絵を寄贈してほしいとの依頼受け、小学生時代の思い出を「雪戦会の日」に描き江部乙小学校へ寄贈しました。晩年は地元の子供らと交流を重ねてきましたが、「ふるさとは・・・自分の過去を記憶して呉れている人々の住む処」とも述べております。このように故郷を愛し、多大な貢献を果たした偉人の母校＝江部乙小学校を、市は貴重な財産として大事に存続されるべきは当然でありましょう。</p> <p>◎提案です。謝恩の意を込め、ぜひ記念館や江部乙小に胸像を建立していただきたいものです。次代の子らへの、有益な教育環境となるはず。</p> <p>④小規模特認校を導入していただきたい。今日、どこで、どんな教育を受けさせるか、保護者は学校を選ぼうとしている時代です。2月の市民説明会で多数の人が導入を支持し長時間意見交換が行われました。市教委の皆さんは特認校のメリットについてはよく理解されているものと思います。導入の方法に2つの形がありました。江部乙地区では大規模校を求める保護者が一定数いる状況です。岩見沢は最初の選択制を改め現在は特認校を採用しておりますが、長らく固定する必要はないので、滝川市ではまず選択制を試行し、成果をみて変更する場合があってもよいかもしれません。各地の成功事例や失敗事例に学び、準備期間や見学会などを設け、自信をもって特認校をスタートさせたいものです。市教委も地元住民も関係教員らの熱意があれば、滝川市の教育が大きく変化し、必ず期待以上の成果が上がるに違いありません。江部乙ならではの地域資源を生かし、個性ある教育を展開し、それが広く市内外に発信され、共感を受けるようになることは十分可能だと思っております。</p> <p>◎提案です。小学校を農村改善センターへ移す。中心部に移れば、学校がまちづくりの核となります。小規模特認校を導入し複式を避ける各学年10名程度を目指す。市民の活動と共用できる場所は調整しながら、施設を有効利用する。グラウンドがないとか施設の改造費が発生しますが、小学校の数年分の維持費を充てるなどしてぜひ実現していただきたい。</p>	<p>望んでいるものと認識しております。</p> <p>文部科学省の手引では、学校の多角的な役割を認めつつも、児童生徒の教育の場であることを大前提とし、学びの環境改善を検討の核とすべきであると示されています。</p> <p>本市としても、次代を担う子どもたちにとって最適な教育環境とは何か、保護者の皆様の声を真摯に受け止め、これまでの検討経過と地域の状況を踏まえ、責任を持って判断したいと考えます。</p> <p>②ご指摘の通り、少子化が中長期的に進行する中、学校の適正規模を確保するための統廃合は、機を逸することなく進めるべき重要な課題であると認識しております。</p> <p>しかし、環境改善を進めるにあたっては、児童に過度な負担を強いることは避けるべきであり、慎重かつ丁寧なプロセスが必要であると考えています。</p> <p>現行の計画は、建設工程や教育環境の移行期間に加え、円滑な開校に向けた諸準備を総合的に考慮して策定しております。そのため、令和13年度の供用開始をさらに早めることは現時点では難しい状況ですが、着実な開校に向けて計画を推進してまいります。</p> <p>③これまでの適正配置計画では、適正規模の確保を目標としつつも、江部乙小学校は「小規模校」に留まり複式学級が常態化していなかったことから、通学の負担等を考慮し存続としてきました。</p> <p>しかし令和2年度以降、児童数の減少により「過小規模」となり、これまでは市費負担教員の配置によって複式学級を回避しております。</p> <p>その後も減少に歯止めがかからず、令和5年度からは複式学級の学年が増加し市費負担職員を増員しています。さらに児童推計によると、令和13年以降は全学年で複式学級となる「極小規模」に至ることが想定されています。</p> <p>従前の計画においても、「過小規模」となった際には教育環境への影響が避けられないため、統合の検討が必要であると明示してきました。</p> <p>今回の見直しにおいては、教育活動への制約が深刻化する前に、子どもたちの学びの環境の改善に向けて判断したいと考えています。</p> <p>また、懸案であった通学負担については、児童数の減少に伴う車両の小型化やルートの最適化により、滝川第一小学校まで現在と同程度の時間で通学が可能となる見込みです。</p> <p>なお、本募集は適正配置計画案に対する意見をいただくものであるため、記念館や胸像の建立に関するご要望につきましては、本計画の回答としては差し控させていただきます。</p> <p>④本市が目指しているのは、すでに教育環境上の課題が生じている「過小規模校」の解消です。江部乙小学校は令和2年から複式学級の規模となっており、この状況を改善することが最優先であると考えております。</p> <p>小規模特認校制度については、その有効性を否定するものではありませんが、道内他自治体の状況や本市の児童数推計、地域性などを総合的に分析した結果、導入による児童数の増加効果は限定的であると判断いたしました。</p> <p>したがって、複式学級が常態化する「過小規模」の解消や、教育環境の抜本的な改善を図ることは困難であるという結論に至りました。</p> <p>また、現在の過小規模化の主な要因は、地域全体の人口および児童数の減少であり、学校の立地による影響ではないと認識しております。そのため、仮に小学校の機能を農村環境改善センターに移転したとしても、児童数の大幅な増加は見込めないと考えております。</p> <p>なお、農村環境改善センターについては、令和2年度に江部乙地区の拠点として整備を行い、現在も江部乙地区のコミュニティの核として多くの方々に利用されています。あわせて、基幹避難所として防災機能の強化も図っております。</p> <p>江部乙地区のまちづくりの拠点である同センターは引き続き江部乙地区の皆様にご利用いただけるように、維持・継続してまいります。</p>
--	--	---

5	東小学校	<p>適正配置計画に対して、意見がありますので、書き込みます。</p> <p>第一に、第二期滝川市小・中学校適正計画改定案に関するアンケートについてです。回答率が 37.9% という低い数値では全体の意見として反映されているとはいえないと思います。</p> <p>また、これは保護者へのアンケートで、そこに住む地域住民へのアンケートになっていません。計画案の中には、「地域の実情を十分に考慮して」とあります。これは地域の実情を考慮しているとは言い難いと思います。</p> <p>アンケートの選択肢も「統合には賛成」「統合はやむをえない」「統合してほしくない」「どちらでもよい」「その他」になっていますが、この選択肢だと、賛成の解答欄が多く、反対の解答欄が少なくなります。解答欄には「できれば統合してほしくない」といった反対に傾いている気持ちの解答欄もなければ、民意と言えないのではないかと考えます。「賛成が大半を占めた」のはアンケートの選択肢の下によるものも含まれてしまいます。これは中学校統合のアンケートも同様です</p> <p>また小規模特認校についての是非についても項目に挙げられておらず、市長等の確認をとって、、、といっても民意が反映されているとは限りません。丁寧さが欠けるのではないかと考えます。</p> <p>第二に、江部乙小の小規模特認校についてです。各種データを載せられて説明をしていますが、滝川市の特色のある学校として打ち出すこともできるのではないのでしょうか。保護者負担での送迎などと各地区ではなっているようですが、今までにない特色ある学校を打ち出す機会と見ることもできるでしょう。</p> <p>4月9日の道新の記事で、江部乙の有志の方たちが要望書を手渡しました。その時、まだ意見を募集している段階にも関わらず、「保護者は統合を認めている」として、保護者の考えを大切にしたいと市長は述べています。意見募集の期間にあった意見要望書であるのに、市長はその要望書を退けたようにも見えます。これではパブリックコメントの意味をなしているとは言えないのではないのでしょうか。結論ありきのパブリックコメントであると言われても仕方ないのではないのでしょうか。</p> <p>第三に、開西中学校と西小学校を統合し、小中一貫校にすることはできないかということです。第三期計画で、小中一貫校への検討を始めるとしているのであれば、先んじて今回、開西中学校を増改築し、小中一貫校とすることも検討することも可能かと思えます。一律で学ぶ学校、様々な規模がある学校のある滝川市は魅力的だと思います。</p> <p>第四に、学校がなくなった際の地域への影響です。学校がない地域にはどんどん衰退していくのは、どの例からも明らかです。地域の中心部に学校があるといっても過言ではありません。滝川市のまちづくりと合わせて考えていかななくてはいけないのに、そのまちづくりと合わせた長期的なビジョンが全く見えません。統廃合の際の地域への影響も長期的な視点で最大限考慮すべきです。その滝川市のまちづくりへの未来へのビジョンを提示していくべきと考えます。人口は減る、だから学校をなくそう、ではなく、人口が減るのを緩やかにしたり、反転攻勢するような施策が必要だと思います。学校の小規模特認校や、小中一貫校もその施策の一つであるでしょう。</p> <p>多様な形態の、多様な子どもに合わせた学校が今、必要ではないかと思えます。滝川市の特徴を活かしたものが人数の適正に縛られることなくできるのではないのでしょうか。</p> <p>今回の適正配置計画は、学校の統廃合だけに関わる問題だけではなく、地域の存続も兼ねた問題です。場当たり主義ではなく、滝川市全体のしっかりとした長期的ビジョンをもってほしいと思います。</p>	<p>1. 本市が実施したアンケートについては、回収率や回答傾向といった制約を踏まえた上で、あくまで意向把握の一つの材料として扱っているものであり、これのみをもって民意を代表するものとして判断しているものではありません。補完的な取り組みとして、PTA 役員や保護者との懇談会などを含め、意向確認を行ってまいりました。また、「やむを得ない」といった回答については、積極的な賛成とは言えませんが、懇談会における意見などを踏まえても概ね同意いただけているものと判断しております。懇談会等の開催にあたり在校生保護者全世帯に保護者連絡用デジタルツールを活用して、事前に検討資料や経過について周知し、デジタルツールを活用ができない未就学児の保護者の皆様には直接資料を郵送するなど懇談会等に参加できない保護者の皆様にも検討内容を共有した上で意向を伺っています。また、設問に対する自由記述欄を設けることで選択肢だけでは得られない様々な意見を把握することができました。</p> <p>2. 小規模特認校として存続させる会からの要望に対し、市長は、江部乙小学校の統合について様々な意見があることを真摯に受け止めております。その上で、議論の中心はあくまで「子どもたちの学習環境の改善」であり、将来にとってより良い環境を整えることを最優先にしたいという思いを伝えたものです。</p> <p>したがって、寄せられたご意見を否定する意図はなく、また当初から結論を決めていた事実もありません。いただいたご意見については、検討の過程において適切に受け止めています。</p> <p>3. 開西中学校と西小学校の統合については、仮に小中一貫校にした場合においても、令和13年以降は各学年1学級の状態が解消されず、クラス替えのできない規模にとどまります。この状況では、本市が目指す、「協働的な学び」の確保が困難であることから、それぞれ別の統合による適正規模の確保が最適と判断しました。</p> <p>4. 本計画は、児童生徒数の減少に対応したより良い教育環境の整備を目的としており、滝川市の将来を見据えた「まちづくり関連計画」と整合を図りながら検討を進めています。</p> <p>多様な子どもに応じた教育は重要と認識していますが、個々のニーズごとに学校を設置することには、児童数や教員配置、施設面からも限界があります。</p> <p>本市としては、一定の集団規模を確保した上で、個別支援や指導の工夫により多様なニーズに対応していくことが現実的であると考えており、その両立の観点から教育環境の在り方を検討していきます。</p>
6	第三小学校	<p>これまで何度も情報は目にしているが、部外者として最初から違和感があつたのは「第一」小学校を存続することに躍起となっている印象を強く感じる。</p> <p>第一小学校区に隣接する、統合対象外の小学校区の住民へはアンケートが実施されず、のけものにされていると感じる。</p> <p>アンケート結果に「子どもの立場になって適正配置計画を考えてほしい」と意見があつたが、これに尽きる。運転マナーの悪いドライバーが多く、正当な理由もなく歩行者の通行を妨害するドライバーが一定数いる。通学距離が長くなる徒歩通学の児童の身の安全確保を真剣に考えてほしい。バスを出しておけば良いという話でもない。</p> <p>昨年の市役所での市民説明会が2日間しかなくどちらも遅い時間帯だったので参加できなかった。説明会のことは、平日頃から滝川市HPを閲覧していたから知った。広報は掲載場所が悪く、目に入ら</p>	<p>1. 統合により通学距離が長くなる児童・生徒の安全確保は、統合における最優先事項と認識しております。ご指摘いただいた「ドライバーのマナー」や「冬期間の視認性」などの懸念を踏まえ、通学路の危険箇所の把握と実効性のある安全対策を講じてまいります。</p> <p>2. 説明会等の周知方法については市民の皆様へ情報が届くよう掲載の仕方については今後改善してまいります。また、今後は広報やホームページに加え、ご提案いただいたLINE等のSNS活用を積極的に進め、より多くの市民の皆様へ情報を届けられるよう、発信のあり方を改善してまいります。</p> <p>3. 現在、滝川市内の小・中学校の多くは築40年を超えるものが大半を占め、施設の老朽化対策に取り組まなければならない時期をむかえています。特に滝川第一小学校は築60年以上を経過し、老朽化が著しく、その対策が喫緊の課題となっております。滝川第一小学校の方向性は適正配置</p>

		<p>なかった市民が多かったのではないかと思うし、なぜわざわざこんな場所に掲載したのかとすら思う。LINE や Instagram をどんどん活用してほしい。</p> <p>統廃合対象の4校のなかで2番目に学級数が少ない第一小学校になぜ統合するのか。市街地にある学校としては、統廃合対象のなかで1番学級数が少ない。</p> <p>第一小学校の建替について、統合が直接の要因ではないというのであれば、まず学区の見直しをすれば良いと思う。第一小学校区内の住居は、東小学校、西小学校、第三小学校に通える児童も多数いる。</p> <p>開西中学校が江陵中学校に統合となれば、農村地区でもない開西中学校区の生徒の通学距離が長くなる。特に西町や有明町、扇町の生徒は通学困難となり、むしろ明苑中の方が通学しやすい。</p> <p>コンパクトシティ化を進めていることや、土地が安い地域への居住推進をしていることなども理解している。しかし、部外者から見ても、閉校予定の地域を見放している印象を受ける。</p>	<p>計画のなかで様々な検討を重ねており、学区の見直しだけでは適正規模を維持することは困難で将来の児童数や施設の老朽化、まちづくりの観点を踏まえると小学校の再編が必要であり、適正規模を確保するための統合と合わせて滝川第一小学校の建て替えを進めています。</p> <p>詳しくは、令和7年3月に策定した「滝川市新小学校整備基本構想」15ページから18ページをご覧ください。</p> <p><a href="https://www.city.takikawa.lg.jp/uploaded/life/20169_33870_misc.pdf">https://www.city.takikawa.lg.jp/uploaded/life/20169_33870_misc.pdf</a></p> <p>4. 本市では、中学校進学時の「中一ギャップ」などの負担を軽減するため、小・中学校の通学区域を一致させる方針をとっております。ご指摘の一部の地区は、明苑中学校が地理的に近いことは承知しておりますが、義務教育9年間の円滑な連携を優先し、現在の統合先を検討しております。</p> <p>5. 子どもの立場に立った計画と地域への配慮について</p> <p>統廃合は、小学校がなくなる地域の方々にとって様々な思いがあることも十分認識しております。閉校となる地域の皆様が「見放された」と感じることはないよう、今後も対話を重ね、子どもたちが将来にわたってより良い環境で学べるよう、地域とともに歩んでまいりたいと考えております。</p>
7	第二小学校	<p>江陵中学校もすでに老朽化しているのに、財政が厳しく建て替えの予定なく改修や修繕をするのであれば、統合する学区のみ思い切って小中一貫校で建て替えするという考えに変えてみては？</p> <p>25年後の児童生徒数を理由に一貫校は考えていない様だが、建物はそれ以降も残る。これを機に小中学校を一気に建て替えたほうが遠い将来を見据えて良いのではないか。</p> <p>スクールバスも2ヶ所ではなく1ヶ所で効率良く通学できる。</p> <p>統合で家から遠くなる家庭もあり、小中学校それぞれに通う家庭は1ヶ所に集まっている方が送り迎え等、安心できるのではないか。</p> <p>子供たちにより良い環境、より質の高い教育するためのあり方について今一度検討していただきたい。</p>	<p>現時点では、小学校と中学校それぞれの段階において、発達段階に応じた教育を行いながら、小中連携による教育（通学区域の整合など）を継続し、小学校から中学校への円滑な接続を図っております。</p> <p>児童生徒数の減少や教育ニーズの変化により、将来的に小中一貫教育などの導入を検討する時期が訪れる可能性はありますが、今回の適正配置計画の改定にあたっては、従来の小学校、中学校の枠組みにおいて適正配置・適正規模の検討を行い、計画を進めてまいります。</p>
8	東小学校	<p>江部乙のことを考えると統合するにしても大変なことですから、こどものことを、一番に考えてください。</p> <p>苦しい選択ですね。問題が多いですね。無責任に答えられません</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>

【統合を求める意見】 15 件

No.	学校区 (住所)	ご意見の内容	回答
9	江部乙小学校	<p>小学校統合に賛成致します。</p> <p>少人数もきちんと見てくれていいですが、大人数の中で色々な経験をするのが大切だと感じております。</p> <p>※反対運動してる方が家に来ましたが、賛成してることを伝えたら、態度が悪くなり、大きな声で怒鳴ったりして怖い思いをしました。そんな感じで署名活動をしてると思ったら、すごく怖いです。</p>	<p>本市としても子どもたちが一定規模の集団の中で多様な意見に触れ、社会性や協調性を育むことは、次代を担う子どもたちにとって重要であると考えております。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
10	江部乙小学校	<p>江部乙小学校統合に賛成なのに統合反対の署名活動者がしつこく、仕方なく署名してしまいました。我が子のこれからの将来の事を考えると統合し大人数での学校生活で色々な経験をして欲しいので統合に大賛成なんです。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
11	江部乙小学校	<p>小学校統合には賛成です。もっと早い段階でもよかったと思います。少人数での良いことはもちろんたくさんありますが、運動会や学習発表会などは、少人数すぎて成り立たなくなりつつあるのでは？と感じます。</p> <p>江部乙中学校と江陵中学校統合の時に在学していた子供もいます。馴染めるか？と心配もありましたが、人数が増えることで大きく成長した感じます。</p> <p>人間関係の選択ができる、部活動の幅が広がる。学習の比較人数が増えるという点ではとても良いことだと思います。</p> <p>現状で中学校から江陵中学校へ行き人数が増えるよりも、小学校入学の段階から大人数の中でコミュニティを作ることができるのは、子供たちの成長にとってもメリットは大きいと思います。</p> <p>江部乙地区に学校がなくなるのは寂しい感じもしますが、時代の移り変わりを受け入れる良いタイミングかと思います。</p> <p>江部乙地区に住みながら、大人数での教育が受けられると考えると、江部乙地区に残りやすい理由になるかと思います。地域の活性化ではなく、適正配置が論点なので子供たちの未来を考えると統合に反対する理由はありません。</p> <p>署名活動も来ていただきましたが、賛成意見を伝えてもなかなか断れない過激な感じもありました。</p>	<p>中学校の統合を経験した保護者様からの貴重なご意見をいただき感謝いたします。また、実際のお子様の成長についての貴重をご意見にいただき重ねて感謝いたします。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
12	江部乙小学校	<p>令和 13 年度の統合に賛成です。現在我が家には江部乙小学校に通う子ども、令和 13 年以降に通う子ども、江部乙小学校を卒業し江陵中学校に通う子どもがいますが、それぞれの現状を鑑みても、統合は早いほど良いと感じております。少人数であればあるほど各学年での活動の幅が狭まり、子ども同士の関係性から生まれるものが少なく、また中学校進学の際のギャップが大きいと感じます。実際に少人数故の弊害も多く目撃し、その度に変えられない現状と思い受け入れてまいりました。</p> <p>保護者の負担が増え、地域から学校がなくなることに一抹の寂しさを感じずにはいられませんが、真に子どものことを思うのならば、統合は必然のことと存じます。</p>	<p>現在、江部乙小学校に通う保護者様からの貴重なご意見をいただき感謝いたします。いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
13	江部乙小学校	<p>統合に賛同致します。</p> <p>理由は以下の為</p> <p>一つ、江部乙町内に於いて、少子化が著しく進んでいる為</p> <p>二つ、子供の登下校に地域の方のボランティアによる子供達の監視又は予防対策の活動が無い為</p> <p>三つ、子供の将来を考えて大人数での授業は多くの学びがあると思う為</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
14	江部乙小学校	<p>江部乙小学校統合賛成です。少人数のままだと制限される行事も多いですし中学校からいきなり大人数の学校に入らなきゃいけないというのも大変だと思います。これからの子供達のためによりしくお願いします。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>

15	江部乙小学校	統合に賛成します。	いただいたご意見を踏まえ、計画の推進に努めてまいります。
16	江部乙小学校	統合に賛成 理由は江部乙小学校をお化け屋敷にして欲しいから	いただいたご意見を踏まえ、計画の推進に努めてまいります。
17	江部乙小学校	統合に賛成	いただいたご意見を踏まえ、計画の推進に努めてまいります。
18	東小学校	<p>小学校の統合について、私は賛成です。</p> <p>私は江部乙小学校の卒業生であり、地域や学校への愛着があります。しかし、児童数が減少していく中で、子どもたちにとって十分な教育環境が保たれるのか、不安を感じます。</p> <p>実際に、長女の就学先を検討した際も、江部乙小学校に通わせるか悩みましたが、最終的には児童数の多い学校を選びました。友達関係の広がりに加え、将来多くの人と関わることを見据え、幼いうちから様々な人と関わる環境に慣れてほしいと考えたためです。</p> <p>一定規模の児童数があることで、多様な価値観に触れる機会が増え、子ども同士の関わりも広がります。また、行事や集団活動もより充実したものになると考えます。</p> <p>母校がなくなることへの寂しさはありますが、子どもたちにとってより良い教育環境を整えることが何より大切であり、そのためにも統合は必要だと考えます。</p>	保護者様の就学時の体験など貴重なご意見をいただき感謝いたします。いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。
19	江部乙小学校	江部乙小学校統合に賛成する。 子供が減っていく中で、教育環境を整えることは大切なことだと思う。	いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。
20	江部乙小学校	<p>何度か会に参加させていただき、意見した者です。子どもが江部乙小学校に通っています。</p> <p>私は統合には賛成です。江部乙小学校は大好きですが、子どもの人数が少なくても子供達は楽しく学校生活を送っていますし、先生たちも尽力されているので、このまま存続でも嬉しいのですが、1クラス1人、2人などいない場合も今後出てくることを考えると、我が子が色々な考えを持つ人に出会う場が狭まってしまうような気がします。学校は、さまざまな授業を通して、生活を通して、いろんな人と関わり、いろんな考えに触れ自分はどんな考えを持つか、考える時間がとても大切だと私は思います。</p> <p>仲良くするためにどうしたらいいか、仲良くできない時はどうしたらいいか考える大切な時期です。その時周りに子供がいないと考える場がないように感じます。関わる人間がいらないといろんな問題に立ち向かう姿勢を育てないとならないと思います。</p> <p>江部乙小学校を残したいその気持ちで反対してくださったり、子どもたちと関わってくれた地域の方はとても大切にしたいです。その上で統合に賛成します。</p> <p>江部乙小学校が統合する前に、地域の皆さんとの交流があったら次のステップに進めると思いました。みなさんの思いを受け止めて統合してからも見守って欲しい。その思いを受けた子どもたちが江部乙に恩返しできる日が来ることを願ってくれたら嬉しい。</p> <p>江部乙は衰退しないようにするためには学校以外ところから進めて行かないとならないと感じます。江部乙の子どもたちがより、良い環境で、色々な考えを持てるように統合に賛成します。</p>	現在、江部乙小学校に通う保護者様からの貴重なご意見をいただき感謝いたします。いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。
21	江部乙小学校	<p>江部乙小学校に子どもが通う親です。卒業生でもあります。</p> <p>まず統合について賛成です。</p> <p>学校の存在意義は同級生との交流が主だと考えます。同級生の数だけ見える世界が増えると思います。5人以下のクラスでは班が形成できず、班長をやる機会がありません。班が複数ないとほかの集約された意見を聞く機会がありません。</p> <p>人数が少ないことで様々な子どもたちが成長する機会が失われていくと考えます。</p> <p>学習は家庭の影響もあると思うので少数でも良いと思いますが、他者との関係を築く練習は学校でされていくと助かります。</p> <p>教育委員会の学校教育への考え方で間違っておりません。統合に向けて進めて頂きたいです。よろしくお願ひ申し上げます。</p>	江部乙小学校の学習環境について貴重なご意見をいただき感謝いたします。いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。

22	江部乙小学校	<p>合併はやむを得ず賛成します。あまりにも生徒数が少なすぎて同年齢の子どもたちとの交流の機会が著しく損なわれています。江部乙の小学校がこの状態のため、仕事場は江部乙だが、滝川の他の小学校区へ住み替える若い人たちも何家族もいます。</p> <p>もし存続するとなると、更にこの動きは加速し若い人たちは江部乙から離れ過疎化が進行すると思います。</p> <p>存続を希望するのであれば、まず地元産業を活性化し若い人たちに選ばれる場所になる必要があります。人がたくさんいれば、このような議論にもならないわけですから、なぜ小学生がいなくなってしまったのかを考えないと、1学年0人、1人、2人という超少人数での小学校運営をせざるを得なくなります。</p> <p>日本全体の人口推移を見ても存続は現実的ではないです。子供の数が少ないのは、今まで社会を作ってきた大人の責任です。その責任を未来ある小さな子供に背負わせるのは断じてあってはいけません。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
23	江部乙小学校	<p>小学校の統合については、児童数の減少でやむを得ないと思います。</p> <p>少人数での良い所もあると思いますが子供達がこれから大人になり社会に出る将来の事を保護者として考えますと多数の集団教育環境が望ましいと思います。</p> <p>江陵中と江部乙中が統合しましたが実際に生徒から統合して良かったと聞いています。</p>	<p>中学校の統合を経験した生徒の貴重なご意見をいただき感謝いたします。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>

【市外】 3件

No.	学校区 (住所)	ご意見の内容	回答
24	市外	<p>今年滝川市に帰ります。そして江部乙小学校に通ってる甥姪がいます。長崎からですが意見させてください。</p> <p>まず江部乙小学校存続についてですが、なくさないで欲しい。と言ってる方たちの理由はなんですか？</p> <p>歴史がある。通っていた。思い出がある。だからなくさないで欲しい。そんな理由になっていませんか？</p> <p>現在通ってる子供たち、そしてこれから通う子供たちの事を考えた反対なのでしょうか？</p> <p>私自身マンモス校に通っていたので人数が少ないと聞いた時、正直羨ましいと感じました。先生が一人一人の事を見てくれる。勉強に置いてかれることがないんじゃないか。という点です。</p> <p>そして現状の江部乙小学校の子供たちを見ていて学年を超えて仲良しなところも正直羨ましいです。</p> <p>ただ、人数が少ないと出来ないことも沢山あると思います。通ってる子供たち、これから江部乙小学校に通う予定の親たちの意見の方が少人数でしょうが、とても大切だと思います。世の中も色々変わってきている中で、何が子供たちにとって最善なのかを一番に考えてもらいたいです</p> <p>誰でも思い出の場所、歴史ある場所がなくなるのは嫌です。ですがそんな意見や署名だけで学校が存続されないように。と思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>
25	市外	<p>江部乙小の統合に賛成します！</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、計画の推進に努めてまいります。</p>
26	市外	<p>今回の件を、小学校、中学校と共に過ごした同級生よりお聞きし、市民のみの意見しか反映されないと思いますが、自分の意見を送信させていただきます。</p> <p>統合しない、統合するに関しては、現在、江部乙小学校に通っている、これから通う予定の保護者の意見を優先すべきだと思います。</p> <p>私個人の意見としましては、思い出深い幼少期を過ごした場所ですが、今現在通っている子ども達が、生徒人数を原因に体育の授業や、音楽等の発表会を満足いく形で行えず、集団行動の大切さ等を学べず、中学校に進むこと自体が問題だと思います。</p> <p>過去には、色々な問題があった地域だと思いますが、小学校、中学校含め何かと問題のある教師や定年間近の教師が集まりやすい傾向にあったかと思います。教師の人数、教師の質を適正化するためにも、統合は必要なことだと思います。</p> <p>反対意見の中には、①送迎費用②新しい校舎を使わない③生徒に目が届かなくなるなどの意見がありました、</p> <p>①送迎費用に関しては スクールバスの迎え場所に20キロも30キロもあるわけではないと思うので、そもそもただのめんどくさい言い訳ではないかと思う。</p> <p>②新しい校舎を使わないに関しては 滝川市では代表的に、過去に新築にした、「ほぼ空室が目立っている市役所」「隣町に頼るだけで緊急時にも対応ができていなく、出産等の対応も砂川任せな市立病院」と前例があるので使える校舎はそのまま使う事が、私は正しいと思う。</p> <p>③生徒に目が届かなくに関しては これに関しては、保護者と学校教員とが協力し改善できることだと思う。</p> <p>それと気になった点ですが、未回答が目立つアンケート結果ですが、もっと保護者が興味、関心を持ち聞き入れるような内容を発信することが、教育委員会の今後の仕事であり、保護者側ももっと自分の子どもの置かれている環境に危機感を持つべきだと思う。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に向けて、計画の推進に努めてまいります。</p>